

各部部長及び  
若手アカデミー報告資料

第一部報告  
第194回総会  
2025年4月14日～16日

第一部役員  
部 長：吉田 文  
副部長：只野雅人  
幹 事：小田中直樹  
幹 事：西山慶彦

# 第一部の組織

## 分野別委員会 (10) ・分科会 (59)

分野別委員会	分科会数
言語・文学委員会	3
哲学委員会	4
心理学・教育学委員会	4
社会学委員会	6
史学委員会	9
地域研究委員会	7
法学委員会	10
政治学委員会	5
経済学委員会	6
経営学委員会	3
第一部直接統括	2

※第25期の第一部における分科会数は79。

# 第一部の運営体制

- 部会：年3回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：部会の中に1～2回、必要に応じて開催（部役員＋分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
  - 国際協力分科会
  - 総合ジェンダー分科会

# 第26期の方針

- ① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
- ② 改正科学技術・イノベーション基本法、第7期科学技術・イノベーション基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
- ③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、第一部の特性を活かしながら積極的に参画します。
- ④ 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

# 2024年10月総会以降の活動

- 「意思の表出」に関わる部及び分野別委員会による査読等の実施
- 多彩なシンポジウム等の開催（2024年10月以降、公開シンポジウム等を15件開催。）

# 意思の表出の状況（2025年4月現在）

【科学的助言等対応委員会に申出書を提出済】

- ①提言「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」  
（情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会）
- ②見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」  
（政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会）
- ③報告「復興アーカイブと社会的モニタリングの機能強化を目指して（仮題）」  
（社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会）

# 意思の表出の状況（2025年4月現在）

- ④提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して」  
（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）
  
- ⑤見解「AI活用時代における経営教育の改革」  
（経営学委員会AI時代に備える経営人材育成に関する分科会）
  
- ⑥報告「現代社会における多様なリスクに対する法的・政策的対応（仮題）」  
（法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会）

# 意思の表出の状況（2025年4月現在）

【近日中に科学的助言等対応委員会に申出書を提出予定】

1. 見解「ESD充実のための地理教育における小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて（仮題）」

（地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会）

2. 報告「よりよい社会を実現するためのこころの学びの未来像（仮題）」

（心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会）

3. 見解「心理科学研究所（仮称）構想の推進」

（心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会）

## 意思の表出の状況（2025年4月現在）

4. 提言「言語的少数者との共生のための、言語権概念の『学習指導要領』への導入（仮題）」

（言語・文学委員会言語コミュニケーションと共生分科会）

5. 報告「価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創（仮題）」

（社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）

# 公開シンポジウム等（2024年10月-2025年3月分）

- 10/5 公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」（政治学委員会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会）
- 10/26 公開シンポジウム「脳組織を人工的につくることの意味を考える ～科学者と哲学・倫理学・宗教学者の対話から～」（哲学委員会）
- 10/27 公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム 歴史総合・日本史探究・世界史探求の史資料を使う」（史学委員会、同 教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会）
- 10/27 公開シンポジウム「国際シンポジウム：LGBTQの権利保障をめぐる法整備の現状と課題」（法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会、科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会、法学委員会 ジェンダー法分科会）

# 公開シンポジウム等（2024年10月-2025年3月分）

- 12/15 公開シンポジウム「『学びの多様化学校』の学校づくりに学ぶ」（心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会）
- 12/22 公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」（科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会 ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会 ジェンダー法分科会）
- 1/11 公開シンポジウム「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」（社会学委員会 価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）

# 公開シンポジウム等（2024年10月-2025年3月分）

- 1/25 公開シンポジウム「阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生～問われる日本の教育と若者の未来～」（地域研究委員会 多文化共生分科会、関西外国語大学国際文化研究所）
- 3/1 公開シンポジウム「人流ビッグデータがもたらす新しい未来像」（地域研究委員会 地域情報分科会）
- 3/1 学術フォーラム「AI活用時代における経営教育の変革」（日本学術会議、経営関連学会協議会）
- 3/8 公開シンポジウム「〈原爆〉をめぐる記憶と継承」（社会学委員会・社会学系コンソーシアム）

# 公開シンポジウム等（2024年10月-2025年3月分）

- 3/16 公開シンポジウム「不登校現象に関する研究の到達点」（心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会）
- 3/19 公開シンポジウム「教育DXのためのデータ利活用について考える」（情報学委員会・心理学・教育学委員会合同 教育データ利活用分科会）
- 3/19 公開シンポジウム「未来を創る主権者教育」（政治学委員会）
- 3/20 公開シンポジウム「初等教育における世界的な視野の獲得について」（地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同 地理教育・ESD分科会、公益社団法人日本地理学会地理教育専門委員会）

# 第二部活動報告

令和6（2024）年10月～令和7（2025）年3月

## 第二部役員

部長：神田 玲子

副部長：尾崎 紀夫

幹事：奥野 恭史

幹事：堀 正敏

# 組織及び活動の概要

第二部は会員69名、部および下記9委員会※1のもとに81分科会（2025.03.31時点）が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。

分野別委員会	委員長	分科会数
部附置分科会		
生命科学系学術雑誌問題検討分科会	小林 武彦	1
第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会	樋田 京子	1
基礎生物学委員会	小林 武彦	13
統合生物学委員会	北島 薫	7
農学委員会	中嶋 康博	12
食料科学委員会	高山 弘太郎	10
基礎医学委員会	五十嵐 和彦	9
臨床医学委員会	山本 晴子	13
健康・生活科学委員会	西村 コミ	7
歯学委員会	村上 伸也	3
薬学委員会	奥田 真弘	5

※1 環境学委員会は分野別委員会ではあるが、融合領域分野として第一部～第三部の会員から構成されているため、9委員会には含めていない。

※2 このほか、農学委員会土壌科学分科会と臨床医学委員会放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会の下にそれぞれ1つずつの小委員会が設けられている。

## 第二部の意思決定や意見交換 ～部会や拡大役員会の開催～

部会は、総会時ならびにメール審議形式で開催している。役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。また補欠会員の選考や旅費執行など、重要な方針決定の際には、分野別委員会委員長に事前相談や確認をいただいている。

### ◆第二部部会：第6回（2024年10月22日）

議題：部附置分科会の設置や学協会連携に関する議論

日本学術会議のあり方に関する検討や委員会/分科会等の活動に関する報告など

決定事項：学協会の連合体と第二部との連携を進めるため、年に1～2度の意見交換を開催する

### ◆生命科学系の学協会連合体との円卓会議：第1回（2025年2月24日）

（第二部拡大役員会\*のもとに開催）

議題：参加機関紹介、現在の日本学術会議の活動や取り巻く状況の説明

日本学術会議と学協会連合体との意見交換など

\*副会長(第二部所属)、第二部役員、部附置分科会と分野別委員会の委員長で構成

# 科学的助言

---

- テーマ：国民の健康維持・増進に資する**食品制度**  
食の安全分科会、獣医学分科会、農芸化学分科会、毒性学分科会、  
パブリックヘルス科学分科会  
(食料科学委員会、農学委員会、基礎医学委員会、健康・生活科学委員会、薬学委員会)
- テーマ：**脳科学研究**とその臨床応用に関わる**倫理的課題**  
神経科学分科会、脳とこころ分科会、移植・再生医療分科会  
(基礎医学委員会、臨床医学委員会)
- テーマ：歯学分野の**研究力**の推移と課題  
歯学委員会、基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会 (歯学委員会)
- テーマ：**大学教育**の分野別質保証 (薬学分野)  
薬学教育参照基準検討分科会 (薬学委員会)
- テーマ：**高等学校の生物教育**における重要用語  
生物科学分科会 (基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同)

# 科学的助言

---

- テーマ： **土壌の健康 (Soil Health)** の理解・維持向上・共有  
土壌科学分科会 (農学委員会)
- テーマ： **生活習慣病予防** の推進  
生活習慣病対策分科会 (健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同)
- テーマ： **高齢者の健康と生活** に与える環境の影響  
高齢者の健康・生活分科会 (健康・生活科学委員会)
- テーマ： **ケア共同社会** の実現に向けたケアサイエンス  
共生社会に向けたケアサイエンス分科会 (健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同)
- テーマ： **人口減少・人口偏在社会** に求められる **ヘルスケア人材**  
ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会 (健康・生活科学委員会)
- テーマ： 現代の **新生児医療** における **倫理的意思決定**  
出生・発達分科会 (臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同)
- テーマ： **DNA親子鑑定** の実用化がもたらす課題  
臨床ゲノム医学分科会 (臨床医学委員会)

# 重要かつ対応が必要な問題への科学的助言の社会的インパクト例

**2025年度の法務省啓発活動強調事項**として、新たに以下の項目が追加

## (18) ゲノム情報（遺伝情報）に関する偏見や差別をなくそう

「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」により、今後、ゲノム医療が普及し、ゲノム情報の活用が拡大されていくことが見込まれます。その中で**ゲノム情報（遺伝情報）に関する知識や理解の不足から、日常生活や、就職、保険の加入等の社会生活の様々な場面で、不当な差別やプライバシー侵害などの人権問題が発生するおそれがあります。ゲノム情報（遺伝情報）に関する正しい知識に基づいて冷静に判断することが重要であるとの理解を深めていくことが必要です。**

### 日本学術会議の3つの提言

- ・倫理的課題を有する**着床前遺伝学的検査**(PGT)の適切な運用のための公的プラットフォームの設置 — 遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査(PGT-M) への対応を中心に— (2023.8)
- ・**ゲノム医療**推進に向けた体制整備と人材育成 (2020.8)
- ・**ゲノム医療**・精密医療の多層的・統合的な推進 (2019.7)

### 日本医学会の提言

「良質かつ適切な**ゲノム医療**を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的かつ計画的な推進に関する法律」に関する提言  
(2024.3)

# シンポジウム等 (2024年10月～2025年3月) 1/2

2024年10月から2025年3月の期間中、第二部の委員会・分科会で22件の公開シンポジウム等を開催した。

開催日	名称	開催場所	委員会・分科会
2024年 10月30日(水)	サステナビリティな社会を創るために公衆衛生は どうあるべきか	札幌コンベンションセン ター	健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会
10月30日(水)	女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える 新たな可能性	オンライン開催	歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学 分科会、歯学委員会臨床系歯学分科会、など
11月2日(土)	あごと顔の発生と進化	長崎大学医学部 第1講義実習棟	歯学委員会基礎系歯学分科会
11月24日(日)	「わたしたちごと」としてのケア ～ 家族だけでも、専門家だけでもなく	オンライン開催	健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に 向けたケアサイエンス分科会、臨床医学委員会・健康・生活 科学委員会合同老化分科会、健康・生活科学委員会ヘル スケア人材共創に向けた看護学分科会
11月24日(日)	増大する野生動物と人間の軋轢： これからの鳥獣管理と人間社会を考える	日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)	統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサ イエンス分科会
11月30日(土)	総合的病害虫・雑草管理の課題と望まれる新技術	オンライン開催	農学委員会植物保護科学分科会
11月30日(土)	動物の安楽死を考える	オンライン開催	食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食 料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
12月22日(日)	ライフコース・多職種の間関わる生活習慣病予防	名古屋大学鶴舞 キャンパス基礎研究棟	健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病 対策分科会
12月22日(日)	第6次男女共同参画基本計画に向けた 日本学術会議の期待	オンライン開催	科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェ ンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科 会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会など
2025年 1月9日(木)	人工知能で生命を追求する データ駆動による 生命の理解 — 細胞から人の動きまで —	日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)	統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基 礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオイ ンフォマティクス分科会、IUPAB分科会、生物物理学分科会

# シンポジウム (2024年10月～2025年3月) 2/2

開催日	名称	開催場所	委員会・分科会
1月11日(土)	人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材	オンライン開催	健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会 健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会
2月15日(土)	動物科学の最前線：めぐるめく多様性を科学する(3)	オンライン開催	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2月16日(日)	知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践	オンライン開催	臨床医学委員会慢性疼痛分科会
2月24日(月・祝)	学術フォーラム「成人病から生活習慣病、そして今後 ～疾病予防をさらに進めるために～」	日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)	日本学術会議
3月1日(土)	高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合	オンライン開催	健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、など
3月5日(水)	農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望	札幌コンベンションセンター	第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
3月11日(火)	わたしたちの食をまもる植物保護科学の未来	東京大学安田講堂 (ハイブリッド開催)	農学委員会植物保護科学分科会
3月14日(金)	地球規模の変化に対応したレジリエントな水産業－水産業を評価するための基準を考え直す－	オンライン開催	食料科学委員会・同水産学分科会
3月15日(土)	日本在来馬は、どこから来て、どこへ行くのか？	オンライン開催	食料科学委員会畜産学分科会
3月16日(日)	気候変動下の食料生産の確保に向けた研究最前線	東京大学弥生講堂 (ハイブリッド開催)	農学委員会育種学分科会
3月20日(木・祝)	人間にとって学習とは何か？	東京大学理学部2号館講堂 (ハイブリッド開催)	統合生物学委員会自然人類学分科会
3月29日(土)	睡眠・冬眠と体内時計 ～生物リズムの進化から未来社会を考える～	オンライン開催	基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同生物リズム分科会

サステナビリティな社会を創るために  
公衆衛生はどうあるべきか

公開シンポジウム  
**10/30 WED**

10月30日(水)16:00~18:00  
会場：札幌コンベンションセンター 第7会議場

15:25 開会挨拶  
15:30 講演1  
15:45 講演2  
16:00 講演3  
16:15 講演4  
16:30 講演5  
16:45 講演6

講演者：  
15:25 橋本 隆雄 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:30 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:00 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:15 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:30 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)

第83回日本矯正歯科学会学術大会  
公開シンポジウム  
**女性理系研究者が拓く未来  
一歯学から芽生える新たな可能性**

令和6年(2024年)  
10月30日(水)16:00~18:00

開催趣旨  
女性理系研究者の活躍は、社会の発展に不可欠な要素です。本大会では、女性理系研究者の活躍の場を拡大し、新たな可能性を拓くための取り組みを共有し、相互に学びを促すことを目的としています。

開催日時 10月30日(水)16:00~18:00  
会場 札幌コンベンションセンター 第7会議場

講演者  
15:25 橋本 隆雄 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:30 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
15:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:00 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:15 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:30 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)  
16:45 藤田 孝一 (北海道大学大学院 環境学専攻 環境学教授)

第66回 歯科基礎医学学会学術大会  
日本学術会議シンポジウム (市民公開講座)  
参加費無料・事前申込不要

2024年11月2日(土) 14:50~16:20  
長崎大学医学部第1講義棟第一講義室  
(長崎県長崎市本町1丁目12-4)

『あごと顔の発生と進化』  
1. オープンビュー  
挨拶 祥子  
日本学術会議連携委員会、東京医科歯科大学大学院  
医学総合研究科 分子発生・口腔腫瘍学教授 歯科基礎医学学会員  
2. 歯の進化と発生  
大島 勇人  
新潟大学大学院医学総合研究科教授 歯科基礎医学学会員  
3. 頭部形成の初期進化と発生  
倉谷 遼  
国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター  
客員主幹研究員  
4. クロージングリマークス  
宿南 知哉  
日本学術会議連携委員、広島大学大学院医系科学研究科  
生体分子遺伝学教授、歯科基礎医学学会員

主催：日本学術会議、歯科基礎医学学会学術大会  
後援：日本生命科学アカデミー

日本学術会議 連携・生活科学委員会 歯科基礎医学学会  
市民公開講座「あごと顔の発生と進化」

第1回公開シンポジウム  
「わたしたちごと」としてのケア～  
家族だけでも、専門家だけでもなく

日時 令和6年11月24日(日曜日) 13:00~16:00

参加費：無料 (定員500名) 要事前登録

会場：札幌コンベンションセンター 第7会議場

講演者  
13:00~13:15 開会挨拶 高橋裕子 (日本学術会議連携第一委員会、ジェンダー・エイワ分科会委員長、津田駒沢大学学長)  
13:15~13:40 家賃挨拶 内閣府男女平等推進 岡田恵子局長  
13:40~14:10 基調講演「男女共同参画への政策転換」に向けた日本学術会議の役割とは？ 第6次男女共同参画基本計画に向けた1 口野安和子 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授) 2 池田幸子 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授) 3 藤田孝一 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授)  
14:10~14:40 講演「1ST代女性の教育、女子学生・産学生涯のための施策と今後の課題」 玉田 薫 (日本学術会議第二委員会、第三部門工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長、九州大学工学部教授、理学士)  
14:50~15:20 講演「21世紀医療と医学分野のジェンダー・エイワ」 多岐達子 (日本学術会議連携委員会、地産地消推進センター化産学・研用内科教授)  
15:20~15:50 講演「3」包摂的医療の発展と女性・性的少数者差別の解消のために」 木村早大 (日本学術会議連携委員会、ジェンダー・エイワ分科会包括的医産連携小児科分科会委員長、東京医科大学大学院研究科 法医学部教授)  
16:00~16:55 会場と対峙：全体総括 (フジテレビ生中継)  
16:55~17:00 閉会挨拶 森 朝康 (日本学術会議第二委員会、東京大学大学院工学部教授)

公開シンポジウム  
**増大する野生動物と人間の軋轢**  
～これからの鳥獣管理と人間社会を考える～

2024年11月24日(日曜日) 13:00~17:00

参加費：無料 (要事前登録)

会場：札幌コンベンションセンター 第7会議場

講演者  
13:00~13:10 開会挨拶 藤田 孝子 (日本学術会議第二委員会、玉川大学教授、植物保護科学分科会委員長)  
13:10~13:45 基調講演「鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減」 中野 亮 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
13:45~14:20 ジャイアントシテンチュウの防除に向けて「清化促進物質」の単離と合成 生田 正樹 (神戸大学大学院農学研究科教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
14:20~14:55 鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
15:10~15:45 ヘルパードに基づく土壌病害の予防的防除の重要性と今後の展望 吉田 重信 (日本学術会議連携委員会、農研機構植物防除研究部門主任研究員) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
15:45~16:20 鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
16:20~16:50 総合討論 松本 宏 (日本学術会議連携委員会、筑波大学名誉教授)

令和6年度日本学術会議公開シンポジウム  
**「総合的病害・雑草管理の課題と望まれる新技術」**

令和6年11月30日(土) 13:00~16:50

参加費：無料 (要事前登録)

会場：札幌コンベンションセンター 第7会議場

講演者  
13:00~13:10 開会挨拶 藤田 孝子 (日本学術会議第二委員会、玉川大学教授、植物保護科学分科会委員長)  
13:10~13:45 基調講演「鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減」 中野 亮 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
13:45~14:20 ジャイアントシテンチュウの防除に向けて「清化促進物質」の単離と合成 生田 正樹 (神戸大学大学院農学研究科教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
14:20~14:55 鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
15:10~15:45 ヘルパードに基づく土壌病害の予防的防除の重要性と今後の展望 吉田 重信 (日本学術会議連携委員会、農研機構植物防除研究部門主任研究員) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
15:45~16:20 鳥獣害の生態学的・社会的リスクの軽減 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
16:20~16:50 総合討論 松本 宏 (日本学術会議連携委員会、筑波大学名誉教授)

# 2024年10月～2025年1月

日本学術会議 (獣医学分科会 食の安全分科会) / 日本法獣医学会  
日本法獣医学会URL: <https://www.jvfm.net/>  
e-mail: [info@jvfm.net](mailto:info@jvfm.net)

動物の安楽死を考える

11/30 15:30-17:30

15:55 動物遺棄防止の動物の安楽死  
16:05 動物の安楽死の法的・倫理的課題  
16:15 動物の安楽死の法的・倫理的課題  
16:25 動物の安楽死の法的・倫理的課題  
16:35 動物の安楽死の法的・倫理的課題  
16:45 動物の安楽死の法的・倫理的課題  
16:55 動物の安楽死の法的・倫理的課題

日本学術会議 第9回日本法獣医学会・生活習慣病・ヒューマン・ヘルス学会学術大会共催  
市民公開シンポジウム  
**ライフコース・多職種の間関る生活習慣病予防**

日時：2024年12月22日(日) 11:10-13:10  
会場：名古屋大学附属キャンパス 医産研4F 第4会議室  
参加費：無料 (どなたでも参加できます)  
オンラインでご観覧される場合はQRコードより参加登録をお願いします。

講演者  
11:10~11:20 開会挨拶 高橋裕子 (日本学術会議連携第一委員会、ジェンダー・エイワ分科会委員長、津田駒沢大学学長)  
11:20~11:40 基調講演「ライフコース・多職種の間関る生活習慣病予防」 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学) 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学)  
11:40~12:00 講演「1」ライフコースの視座からみた歯の健康・健康プログラム 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学) 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学)  
12:00~12:20 講演「2」ライフコースの視座からみた歯の健康・健康プログラム 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学) 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学)  
12:20~12:40 講演「3」ライフコースの視座からみた歯の健康・健康プログラム 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学) 山崎 良典 (筑波大学大学院医学研究科公衆衛生学)

日本学術会議公開シンポジウム  
第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待

オンライン開催 参加費無料(定員500名) 要事前登録

日時：令和6年(2024年)12月22日(日)13:30~17:00

講演者  
13:30~13:35 開会挨拶 高橋裕子 (日本学術会議連携第一委員会、ジェンダー・エイワ分科会委員長、津田駒沢大学学長)  
13:35~13:40 家賃挨拶 内閣府男女平等推進 岡田恵子局長  
13:40~14:10 基調講演「男女共同参画への政策転換」に向けた日本学術会議の役割とは？ 第6次男女共同参画基本計画に向けた1 口野安和子 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授) 2 池田幸子 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授) 3 藤田孝一 (日本学術会議第一委員会、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会委員長、東京大学大学院社会学部教授)  
14:10~14:40 講演「1ST代女性の教育、女子学生・産学生涯のための施策と今後の課題」 玉田 薫 (日本学術会議第二委員会、第三部門工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長、九州大学工学部教授、理学士)  
14:50~15:20 講演「21世紀医療と医学分野のジェンダー・エイワ」 多岐達子 (日本学術会議連携委員会、地産地消推進センター化産学・研用内科教授)  
15:20~15:50 講演「3」包摂的医療の発展と女性・性的少数者差別の解消のために」 木村早大 (日本学術会議連携委員会、ジェンダー・エイワ分科会包括的医産連携小児科分科会委員長、東京医科大学大学院研究科 法医学部教授)  
16:00~16:55 会場と対峙：全体総括 (フジテレビ生中継)  
16:55~17:00 閉会挨拶 森 朝康 (日本学術会議第二委員会、東京大学大学院工学部教授)

日本学術会議 公開シンポジウム  
**人工知能で生命を追求する  
データ駆動による生命の理解  
—細胞から人の動きまで—**

日時：令和6年11月9日(木)13:00~18:00/入場無料

講演者  
13:00~13:10 開会挨拶 高橋裕子 (日本学術会議連携第一委員会、ジェンダー・エイワ分科会委員長、津田駒沢大学学長)  
13:10~13:40 基調講演「人工知能で生命を追求する」 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
13:40~14:10 講演「1」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
14:10~14:40 講演「2」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
14:40~15:10 講演「3」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
15:10~15:40 講演「4」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
15:40~16:10 講演「5」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
16:10~16:40 講演「6」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
16:40~17:10 講演「7」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
17:10~17:40 講演「8」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)  
17:40~18:00 講演「9」人工知能で生命を追求する 林 克彦 (東京大学大学院工学部教授) 小島 裕美 (東京大学大学院工学部教授)

日本学術会議 公開シンポジウム  
**人口減少・人口偏在社会に求められる  
ヘルスケア人材**

2025年1月11日(土)13:00~15:30  
オンライン開催 (YouTube配信)  
参加費無料 (要登録はこちら)

講演者  
13:00~13:10 開会挨拶 藤田 孝子 (日本学術会議第二委員会、玉川大学教授、植物保護科学分科会委員長)  
13:10~13:45 基調講演「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
13:45~14:20 講演「1」人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
14:20~14:55 講演「2」人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)  
14:55~15:30 講演「3」人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授) 佐藤 隆一 (長崎大学環境学研究所 環境学専攻 環境学教授)



公開シンポジウム  
動物科学の最前線：  
めくるめく多様性を科学する(3)

2025年2月15日(土) 15:00-16:00  
Zoomオンライン開催 参加費無料 要事前登録

- 向井 裕美 (森林総合研究所 主任研究員)  
カムシ類の振動コミュニケーションの世界  
後藤 龍太郎 (京都大学瀬戸臨海実験所 助教)  
海産無脊椎動物の多様性と進化  
志賀 向子 (大阪大学大学院理学研究科 教授)  
昆虫の不思議なリズム  
田中 幹子 (東京工業大学生命理工学院 教授) 2月7日17時初稿  
動物の体の形のできたか  
平沢 達矢 (東京大学大学院理学系研究科 准教授)  
脊椎動物形態進化の黎明期の謎



主催：日本学術会議生活習慣病学委員会、産科産科学会動物学分科会  
共催：EPA研究推進委員会、環境省、環境政策評価部、環境政策評価部、環境政策評価部

日本学術会議公開シンポジウム  
日時：2025年2月16日 14:30-18:45

知ってほしい運動器疼痛・疾患の対策と実践

14:30 開会式  
14:35 第1セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
14:40 第2セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
14:45 第3セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
14:50 第4セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:00 第5セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:05 第6セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:10 第7セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:15 第8セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:20 第9セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:25 第10セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:30 第11セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:35 第12セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:40 第13セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:45 第14セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:50 第15セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
15:55 第16セッション「運動器疼痛の最新研究動向と実践的アプローチ」  
16:00 閉会式

日本学術会議主催学術フォーラム  
成人病から生活習慣病、そして今後 ~疾病予防をさらに進めるために~

日時：令和7年2月24日(月・祝) 13:00~17:00  
会場：日本学術会議講堂 (〒100-8565 東京都港区六本木7-22-34 国際研修館5階のハイブリッドホール、アーカイブ配信あり)

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「生活習慣病の予防と治療」  
13:30-13:45 第2セッション「生活習慣病の予防と治療」  
13:45-14:00 第3セッション「生活習慣病の予防と治療」  
14:00-14:15 第4セッション「生活習慣病の予防と治療」  
14:15-14:30 第5セッション「生活習慣病の予防と治療」  
14:30-14:45 第6セッション「生活習慣病の予防と治療」  
14:45-15:00 第7セッション「生活習慣病の予防と治療」  
15:00-15:15 第8セッション「生活習慣病の予防と治療」  
15:15-15:30 第9セッション「生活習慣病の予防と治療」  
15:30-15:45 第10セッション「生活習慣病の予防と治療」  
15:45-16:00 第11セッション「生活習慣病の予防と治療」  
16:00-16:15 第12セッション「生活習慣病の予防と治療」  
16:15-16:30 第13セッション「生活習慣病の予防と治療」  
16:30-16:45 第14セッション「生活習慣病の予防と治療」  
16:45-17:00 閉会式

日本学術会議 公開シンポジウム オンライン開催  
高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合

日時：令和7年3月1日(土) 13:00~18:00  
場所：オンライン開催 (定員500名) オンデマンド配信  
※オンデマンド配信は、シンポジウム終了後に日本学術会議のHPにアクセスください。

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
13:30-13:45 第2セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
13:45-14:00 第3セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
14:00-14:15 第4セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
14:15-14:30 第5セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
14:30-14:45 第6セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
14:45-15:00 第7セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
15:00-15:15 第8セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
15:15-15:30 第9セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
15:30-15:45 第10セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
15:45-16:00 第11セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
16:00-16:15 第12セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
16:15-16:30 第13セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
16:30-16:45 第14セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
16:45-17:00 第15セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
17:00-17:15 第16セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
17:15-17:30 第17セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
17:30-17:45 第18セッション「高齢者の健康と生活に与える環境の影響」  
17:45-18:00 閉会式

公益社団法人 日本農芸化学会  
日本学術会議 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会  
公開シンポジウム  
農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望

日時：2025年3月5日(水) 9:00~11:30  
会場：札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
13:30-13:45 第2セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
13:45-14:00 第3セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
14:00-14:15 第4セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
14:15-14:30 第5セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
14:30-14:45 第6セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
14:45-15:00 第7セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
15:00-15:15 第8セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
15:15-15:30 第9セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
15:30-15:45 第10セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
15:45-16:00 第11セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
16:00-16:15 第12セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
16:15-16:30 第13セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
16:30-16:45 第14セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
16:45-17:00 第15セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
17:00-17:15 第16セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
17:15-17:30 第17セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
17:30-17:45 第18セッション「農芸化学分野におけるジェンダー・イノベーションへの展望」  
17:45-18:00 閉会式

公開シンポジウム  
わたしたちの食をまもる 植物保護科学の未来

令和7年3月11日(火) 13:30~17:05 参加無料  
東京大学安田講堂・オンラインハイブリッド開催

13:30-13:45 開会式  
13:45-14:00 第1セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
14:00-14:15 第2セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
14:15-14:30 第3セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
14:30-14:45 第4セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
14:45-15:00 第5セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
15:00-15:15 第6セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
15:15-15:30 第7セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
15:30-15:45 第8セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
15:45-16:00 第9セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
16:00-16:15 第10セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
16:15-16:30 第11セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
16:30-16:45 第12セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
16:45-17:00 第13セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
17:00-17:15 第14セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
17:15-17:30 第15セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
17:30-17:45 第16セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」  
17:45-18:00 閉会式

# 2025年2月~3月

日本学術会議 公開シンポジウム  
地球規模の変化に対応したレジリエントな水産業 -水産業を評価するための基準を考え直す-

令和7年3月14日(金) 13:00~17:00  
オンライン開催 [参加費無料]

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
13:30-13:45 第2セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
13:45-14:00 第3セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
14:00-14:15 第4セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
14:15-14:30 第5セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
14:30-14:45 第6セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
14:45-15:00 第7セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
15:00-15:15 第8セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
15:15-15:30 第9セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
15:30-15:45 第10セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
15:45-16:00 第11セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
16:00-16:15 第12セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
16:15-16:30 第13セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
16:30-16:45 第14セッション「水産業の評価とレジリエントな水産業」  
16:45-17:00 閉会式

公開シンポジウム  
日本在来馬は、どこから来て、どこへ行くのか？

あなたは、この国で私達と共に暮らしてきた馬の物語をご存知ですか？

日時：2025年3月15日 13:10~15:05  
場所：オンライン開催 (無料、どなたでも参加できます)  
定員500名 (先着順)

13:10 開会式  
13:15 第1セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:20 第2セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:25 第3セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:30 第4セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:35 第5セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:40 第6セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:45 第7セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:50 第8セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
13:55 第9セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:00 第10セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:05 第11セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:10 第12セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:15 第13セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:20 第14セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:25 第15セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:30 第16セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:35 第17セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:40 第18セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:45 第19セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:50 第20セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
14:55 第21セッション「日本在来馬の歴史と現状」  
15:00 閉会式

3/16 2025年  
気候変動下の食料生産の確保に向けた研究最前線

日時：2025年3月16日 13:00~18:00  
場所：オンライン開催 (無料、どなたでも参加できます)  
定員500名 (先着順)

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
13:30-13:45 第2セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
13:45-14:00 第3セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
14:00-14:15 第4セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
14:15-14:30 第5セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
14:30-14:45 第6セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
14:45-15:00 第7セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
15:00-15:15 第8セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
15:15-15:30 第9セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
15:30-15:45 第10セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
15:45-16:00 第11セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
16:00-16:15 第12セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
16:15-16:30 第13セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
16:30-16:45 第14セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
16:45-17:00 第15セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
17:00-17:15 第16セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
17:15-17:30 第17セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
17:30-17:45 第18セッション「気候変動下の食料生産の確保」  
17:45-18:00 閉会式

公開シンポジウム  
人間にとって学習とは何か？

人はなぜ学習するのか？ 大抵「勉強したくない」と思っている。学習と教育の重要性が高まる今、人間の多様な視点からその本質を問う

日時：2025年3月20日(木・祝) 13:00~16:30  
場所：オンライン開催 (無料、どなたでも参加できます)  
定員500名 (先着順)

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「人間にとって学習とは何か？」  
13:30-13:45 第2セッション「人間にとって学習とは何か？」  
13:45-14:00 第3セッション「人間にとって学習とは何か？」  
14:00-14:15 第4セッション「人間にとって学習とは何か？」  
14:15-14:30 第5セッション「人間にとって学習とは何か？」  
14:30-14:45 第6セッション「人間にとって学習とは何か？」  
14:45-15:00 第7セッション「人間にとって学習とは何か？」  
15:00-15:15 第8セッション「人間にとって学習とは何か？」  
15:15-15:30 第9セッション「人間にとって学習とは何か？」  
15:30-15:45 第10セッション「人間にとって学習とは何か？」  
15:45-16:00 第11セッション「人間にとって学習とは何か？」  
16:00-16:15 第12セッション「人間にとって学習とは何か？」  
16:15-16:30 閉会式

日本学術会議 公開シンポジウム  
睡眠・冬眠と体内時計 ~生物リズムの進化から未来社会を考える~

日時：2025年3月29日(土) 13:00~15:50

13:00-13:15 開会式  
13:15-13:30 第1セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
13:30-13:45 第2セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
13:45-14:00 第3セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
14:00-14:15 第4セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
14:15-14:30 第5セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
14:30-14:45 第6セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
14:45-15:00 第7セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
15:00-15:15 第8セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
15:15-15:30 第9セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
15:30-15:45 第10セッション「睡眠・冬眠と体内時計」  
15:45-15:50 閉会式

# 生命科学系の学協会連合体との円卓会議 1/3

---

## ●設置の趣旨・目的

日本学術会議のアクションプランの推進やより良い役割発揮に当たり、第二部と生命科学系の学協会連合体との連携を強め、情報交換及び意見交換を行う場として、「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」を置く。

## ●附議事項

円卓会議で扱う話題や課題は、次の各号に定める事項とする。

- 1) 学協会に共通的な課題：学術論文誌の出版、財政、など
- 2) 科学技術全体に関わる課題：研究力、若手育成・人材確保、経済安全保障、など
- 3) 日本学術会議の活動や学協会との関わり：学術生態系の中での役割、など
- 4) 日本学術会議と各連合体や協議会との連携強化の方策、など
- 5) その他

# 生命科学系の学協会連合体との円卓会議 2/3

## ●出席者

円卓会議の構成員は以下のとおりとする

- 1) 生命科学系の学協会連合体の代表者
- 2) 日本学術会議第二部役員及び副会長（第二部会員）
- 3) 日本学術会議第二部附置分科会委員長及び分野別委員会委員長

必要に応じて、生命科学に関係する課題別委員会及び各分野別委員会の分科会の委員長の出席を求めることができる。前項の規定にかかわらず、日本学術会議第二部会員及び日本学術会議幹事会構成員は会議に出席し、意見を述べるることができる。

## ●運営方法

円卓会議は、第二部部長が招集し、第二部拡大役員会のもとに開催する。

円卓会議での議論等は、第二部の活動の活性化・高度化に役立てるとともに、必要に応じて、関係する機能別委員会等に情報提供し、日本学術会議全体の活動全体の方針決定に資するものとする。

（令和7年（2025年）2月24日 第1回生命科学系の学協会連合体との円卓会議決定）

# 生命科学系の学協会連合体との円卓会議 3/3

男女共同参画学協会連絡会

日本分類学会連合

日本微生物学連盟

生物科学学会連合

日本光生物学協会

自然史学会連合

日本昆虫科学連合

日本植物保護科学連合

農業経済学会関連学会協議会

日本農学会

日本獣医師会

水産・海洋科学研究連絡協議会

日本農学アカデミー

日本医学会連合

日本脳科学関連学会連合

全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

日本看護系学会協議会

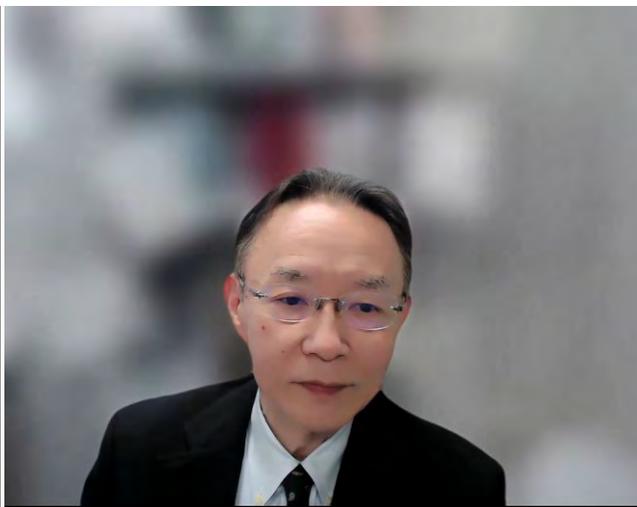
生活科学系コンソーシアム

日本スポーツ体育健康科学学術連合

日本歯学系学会協議会

日本歯科医学会連合

日本薬系学会連合



## 第三部報告

2024年10月～2025年3月

第三部部会 10/22(前回総会中)

第三部拡大役員会 11/28 12/20\* 1/30 2/27\* 3/31

\* 分野別委員会委員長も参加

部長	沖	大幹
副部長	北川	尚美
幹事	奥村	幸子
幹事	関谷	毅

# 1. 第三部における分野別委員会及び附置分科会

## 分野別委員会

環境学委員会 \*  
数理科学委員会  
物理学委員会  
地球惑星科学委員会  
情報学委員会  
化学委員会  
総合工学委員会  
機械工学委員会  
電気電子工学委員会  
土木工学・建築学委員会  
材料工学委員会

## 委員長

森口 祐一  
齋藤 政彦  
腰原 伸也  
佐竹 健治  
下條 真司  
岡本 裕巳  
玉田 薫  
高田 保之  
三瓶 政一  
竹内 徹  
岸本 康夫

## 副委員長

池邊 このみ  
伊藤 由佳理  
櫻井 博儀  
小口 高  
高田 広章  
三浦 佳子  
宮崎 恵子  
佐田 豊  
大橋 弘美  
佐々木 葉  
尾崎 由紀子

\* 第一部～第三部合同

## 第三部附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会  
理工系博士人材育成分科会

玉田 薫

堀 利栄

## 2. 2024年10月～2025年3月の活動(1/4)

### 部会ならびに拡大役員会での議論

(部会:10/22、拡大役員会:11/28 12/20\* 1/30 2/27\* 3/31  
\* 分野別委員会委員長も参加)

### ○分野別委員会の設置ならびに活動状況に関する確認

- 各分野別委員会の活動を部会にて報告
- 分野別委員会の下に75の分科会\*、60の小委員会が設置され、活動を開始  
(参考資料A)
- ※2024年4月以降に設置が認められた分科会は1件
- 会員間の情報共有の円滑化を推進し、分科会活動を精査・支援

### ○公開シンポジウムの開催

- 参考資料B

### ○「アクションプラン」の検討状況の共有と速やかな実行に向けた議論

- 第三部から予定されている提言等の状況確認
- 科学的助言機能強化のための見直し(第三部における査読手順の改訂)
- 関連学協会と連携を深める方法等に関する意見交換(\*参考資料C)

## 2. 2024年10月～2025年3月の活動(2/4)

### 部会ならびに拡大役員会での議論

(部会:10/22、拡大役員会:11/28 12/20\* 1/30 2/27\* 3/31

\* 分野別委員会委員長も参加)

### ○「日本学会議のあり方」に関する議論

→政府有識者懇談会での議論の状況等を踏まえて継続的に意見交換

### ○2024年度予算執行方針に基づく予算執行状況の確認

→2024年度予算執行方針の発出とその後の予算執行状況の検討・確認

### ○第三部夏季部会の企画等に関する検討、意見交換

→日程(8月7～8日)、開催地(東北大)、公開シンポジウムの内容を決定

## 2. 2024年10月～2025年3月の活動(3/4)

部会ならびに拡大役員会での議論(部会:10/22、  
拡大役員会:11/28 12/20\* 1/30 2/27\* 3/31 \*分野別委員会委員長も参加)

○第三部夏季部会の企画等に関する検討、意見交換  
→日程(8月7～8日)、開催地(東北大学)、公開シンポジウム

公開シンポジウム(案) / 研究者になって世界を駆け巡ろう II  
～ 研究者の卵たちと共に未来を描く ～

主催:日本学術会議第三部会、日本学術会議東北地区会議

共催:東北大学、東北大学大学院工学研究科

日時:2025年8月7日(木)13:30～17:30

場所:東北大学青葉山キャンパスC01センタースクエア中央棟2F大講義室・ハイブリッド開催

開催趣旨:

気候変動、エネルギー枯渇、貧困、戦争など、様々な地球規模の課題に立ち向かう日本の研究者たちが、世界中の研究者と力を合わせ、情熱をもって問題解決に取り組んでいます。まさに世界を駆け巡り研究を進めている最前線の研究者の方々を招き、その熱い想いと思い描く未来を中高生や若手研究者たちと共有し、次世代に向けて私たちに何ができるのか、どうやって取り組んでいけばいいのかなど、迷いや不安、疑問をはじめ、新たな気づきやアイデアなどを語り合しましょう。そして、より良い未来に向けて、まずは”一歩”共に考えていきましょう。

## 2. 2024年10月～2025年3月の活動(4/4)

部会ならびに拡大役員会での議論(部会:10/22、  
拡大役員会:11/28 12/20\* 1/30 2/27\* 3/31 \*分野別委員会委員長も参加)

○「人材育成」に関する検討、意見交換

→第三部博士人材育成WGの発足(2025/4より第三部附置分科会  
へ移行)

目的 : 博士人材育成の課題(問題点)とその原因、課題解決に向けた施策を整理し、  
報告をまとめる。必要に応じてエビデンスの収集(アンケート実施と既存データの  
活用)を行う。報告では理工系分野共通の課題だけでなく、分野による状況・  
課題の違いについても明記する。

開催日 : 2024/12/24、2025/1/27、2/28、3/21

経過報告 : ①博士人材育成の課題(問題点)とその原因、施策についての整理・追加。  
: ②エビデンスとして使えるデータをリストアップ。さらにエビデンスが必要な個所  
について議論。  
: ③議論した施策・方策とエビデンスとなる既存データおよびアンケート予定  
の項目概要を2025年4月の部会で報告予定。

## 2. 2024年10月～2025年3月の活動(4/4)

### ○「人材育成」に関する検討、意見交換(つづき)

#### 課題(問題点)と原因、施策の整理(キャリアパスに着目)

博士人材育成の課題(問題点)	原因のうちキャリアパスに関連するもの	キャリアパスに関連する施策案(抜粋)
a) 博士課程進学者の減少	キャリアプランの欠如	多様なキャリアプランを早期から提示
b) 博士取得後の不安定	博士の社会的地位の低下	大学院教育の改革(キャリア教育(産業界との密接な協力)、分野に応じた教育、学費無償化など研究に集中できる環境作り、卒業要件の厳格化、問題解決能力等の高度のジェネリックスキルに答えるための教育の多様性)
c) アカデミアへの人材供給不足	博士の社会的価値の認識不足	人材育成を担う大学や研究機関が、解決すべき社会的課題を抱える企業等からそこで働く技術者の育成を兼ねて技術者派遣を伴う課題解決プロジェクトを受託し、共同で研究開発を行う。
d) 女性研究者の研究継続問題	大学院での専門以外の教育の欠如	短期的教育効果を示す数値(定員充足、修業年限)による評価の見直し
	大学教員のワークライフバランス問題	産業界との(博士人材に関する)対話・理解促進
	大学教員の視野が狭い(分野をまたいだ連携・協力の欠如)	社会人博士を増やす仕組み・制度創設
	社会人から博士課程に戻る難しさ	博士取得者の社会的地位の向上(任期付雇用者の待遇改善、無期雇用できる仕組み)
	(アカデミアの就職先が)有期雇用ばかりで待遇が悪い	アカデミックキャリアのプロセスを明確にし、産業界等での活躍を誘導する制度
	社会が求める人材像の多様化	若手研究者を取り巻く雇用環境に関する統計を整備公表する社会的取り組み
		人材育成の多様性確保に寄与するため、フェローシップ型ポスドク研究員雇用枠を直接経費とは別に措置するなどの柔軟化

### 3. 今後の活動

- 会員・連携会員が参画する委員会・分科会の精査と活動の支援
- 「アクションプラン」の推進に向けた検討
- 「日本学会議のあり方」に関する意見交換
- 「人材育成」に関する検討

# (参考資料A)分野別委員会下の分科会設置状況(1/2)

○分野別委員会下の分科会(委員会の後の()内は分科会数、\*は複数委員会にまたがる合同分科会)

- 環境学委員会(6):FE・WCRP合同分科会\*、環境リスク分科会\*、環境思想・環境教育分科会、環境政策・環境計画分科会、環境科学・環境工学分科会、自然環境分科会\*
- 数理科学委員会(4):IMU分科会、数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会
- 物理学委員会(6):IAU分科会、天文学・宇宙物理学分科会、物性物理学・一般物理学分科会、素粒子物理学・原子核物理学分科会、物理教育分科会、IUPAP分科会\*
- 地球惑星科学委員会(9):地球惑星科学国際連携分科会、IGU分科会、IUGG分科会、IUGS分科会、SCOR分科会、地球・惑星圏分科会、地球・人間圏分科会、地球惑星科学社会貢献分科会、地球惑星科学次世代育成分科会
- 情報学委員会(6):国際サイエンスデータ分科会、ITの生む諸課題検討分科会、教育データ利活用分科会\*、サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会、情報学教育分科会、サイバーセキュリティ分科会
- 化学委員会(11):IUPAC分科会、IUCr分科会、化学企画分科会、物理化学・生物物理化学分科会、無機化学分科会、有機化学分科会、材料化学・分析化学分科会、結晶学分科会\*、触媒化学・化学工学分科会\*、高分子化学分科会、生体関連化学分科会

# (参考資料A)分野別委員会下の分科会設置状況(2/2)

## ○分野別委員会下の分科会(つづき)

- 総合工学委員会(9):総合工学企画分科会、ICO分科会、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会\*、原子力安全に関する分科会、科学的知見の創出に資する可視化分科会、未来社会と応用物理分科会、エネルギーと科学技術に関する分科会、フロンティア人工物分科会\*、計算科学シミュレーションと工学設計分科会\*
- 機械工学委員会(7):機械工学企画分科会、理論応用力学分科会\*、機械工学の将来展望分科会、ロボット学分科会、IFAC分科会\*、生産科学分科会、生体医工学分科会\*
- 電気電子工学委員会(4):URSI分科会、制御・パワー工学分科会、デバイス・電子機器工学分科会、通信・電子システム分科会
- 土木工学・建築学委員会(8):IRDR分科会、気候変動と国土の未来分科会、WFEO分科会\*、インフラレジリエンス分科会、複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会、カーボンニュートラル都市分科会\*、子どもの成育環境分科会\*、デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
- 材料工学委員会(5):材料工学中長期研究戦略分科会、バイオマテリアル分科会\*、サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会\*、新材料デザイン検討分科会、将来展開分科会\*

## (参考資料B) 公開シンポジウム開催(1/3)

「防災士による地域防災力の向上～行政および研究機関との連携強化の進め方～」(2024.10.19)

土木工学・建築学委員会IRDR分科会  
【熊本城ホール3F(ハイブリッド開催)】

「バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略」(2024.10.29)

材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会、機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会  
【仙台国際センター会議棟】

「プラネタリーヘルスフレームワークで築く人類と地球の持続可能な共生社会」  
(2024.11.9)

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会  
【広島大学霞キャンパス凌雲棟(ハイブリッド開催)】

「海底地質災害と洋上風力開発」(2024.11.14)

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、地球惑星科学委員会IUGS分科会  
【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

## (参考資料B) 公開シンポジウム開催(2/3)

「第14回計算力学シンポジウム」(2024.12.10)

総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「阪神・淡路大震災 30 年ーその後の日本社会をいかに変えたかー」(2025.1.15)

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「原子力総合シンポジウム2024」(2025.1.20)

総合工学委員会原子力安全に関する分科会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「多世代・多分野交流による環境・SDGs教育会議～環境問題に関心のない人をどのように巻き込んでいくか?～」(2025.3.7～8)

環境学委員会環境思想・環境教育分科会

【京都里山SDGsラボ「ことす」(ハイブリッド開催)】

## (参考資料B) 公開シンポジウム開催(3/3)

「2つの提言:壊滅的災害へのそなえを考える～1995阪神・淡路、2011東日本、2024能登半島の教訓に学ぶ～」(2025.3.9)

防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会IRDR分科会  
【仙台国際センター(ハイブリッド開催)】

「第10回理論応用力学シンポジウム」(2025.3.14)

機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会

【日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)】

「教育DXのためのデータ利活用について考える」(2025.3.19)

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会  
【京都大学学術情報メディアセンター(ハイブリッド開催)】

「環境リスクと正義」(2025.3.21)

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会  
【ソニックシティ】

「国際競争力向上の戦略」(2025.3.25)

電気電子工学委員会通信・電子システム分科会  
【東京都市大学61C】

# (参考資料C)理学・工学系学協会連絡協議会

第16回 2025年2月27日(木) 9:30～11:30 6年ぶりの現地開催(オンライン併用)

- 第三部人材育成に関するワーキンググループについて意見交換
- 日本学術会議の現状と今後の方針についての意見交換
- 日本学術会議と学協会の連携等について意見交換

- 博士人材育成に関する各学協会の取り組み
- アカデミアと産業界、政府など多様な機関との連携の重要性
- 学術会議からの情報発信の強化
- 意思の表出後の「フォローアップ」の重要性

## などを議論

理学・工学系学協会連絡協議会(82学協会)  
日本学術会議第三部拡大役員会の下に、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題(新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等)、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた。

第1回	2010年4月23日(金) 13:30～15:30
第2回	2011年7月29日(金) 13:30～15:30
第3回	2012年5月18日(金) 14:00～16:00
第4回	2013年2月22日(金) 10:00～12:00
第5回	2014年6月25日(水) 13:30～15:00
第6回	2016年6月24日(金) 10:00～12:00
第7回	2017年8月31日(木) 10:00～12:00
第8回	2018年3月30日(金) 10:00～12:00
第9回	2019年3月28日(木) 10:00～12:00
第10回	2020年8月26日(水) 10:00～12:00
第11回	2020年10月30日(金) 13:00～15:20
第12回	2021年6月24日(木) 10:00～12:00
第13回	2022年3月24日(木) 10:00～12:00
第14回	2023年3月23日(木) 9:30～11:30
第15回	2024年3月25日(月) 10:00～12:00
第16回	2025年2月27日(木) 9:30～11:30

# 日本学術会議第194回総会 若手アカデミー活動報告

(2024.10-2025.3)



# 第26期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー（Young Academy of Japan）は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる45歳未満の研究者で構成

## 26期の体制と活動（2023.12-2026.9）

1. 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動・発信
2. 日本学術会議の活動や発信への若手研究者視点の反映
3. 具体的な諸問題に取り組む7つの分科会活動



全体委員数 46名  
(連携会員（特任） 2名)

# 運営分科会メンバー

## 幹事団



代表  
小野 悠



副代表  
標葉 隆馬



幹事  
南澤 孝太



幹事  
門田 有希

## 分科会 委員長



学術の未来を担う  
人材育成分科会  
小川 剛伸



ワーク・ライフ・  
バランス分科会  
川口 慎介



若手主導の異分野融合研究  
の推進に関する分科会  
藤岡 沙都子



国際分科会  
加納 圭



未来を拓く学術  
イノベーション分科会  
武田 秀太郎



地域社会とアカデミアの  
連携に関する分科会  
木村 草太



情報発信分科会  
大西 楠テア

# 7つの分科会

分科会名	審議事項
<b>学術の未来を担う人材育成分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学術の次世代を担う若手人材の育成</li> <li>• 次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策</li> </ul>
<b>ワーク・ライフ・バランス分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた現状把握と対策</li> <li>• 女性研究者への過負荷の現状把握と対策</li> </ul>
<b>若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 科学分野間の融合に関する調査・議論</li> <li>• 新たな学術的成果の表現方法に関する調査・議論</li> </ul>
<b>国際分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の学術が地球社会において果たすべき役割と国内での活動指針</li> <li>• 若手アカデミーの国際的活動の推進および連絡調整</li> <li>• 各研究分野の国際化をめぐる課題</li> <li>• 科学技術外交、技術移転に関する課題</li> <li>• グローバルレベルでの公平な知識やアクセスに関する課題</li> </ul>
<b>未来を拓く学術イノベーション分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産官学連携を通じたイノベーション創出の在り方</li> <li>• イノベーション・エコシステムの創出</li> <li>• イノベーションを通じた地域創生</li> </ul>
<b>地域社会とアカデミアの連携に関する分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域社会での科学者の役割の可視化と評価</li> <li>• 地域活性化に資する公共・民間・学術の連携</li> <li>• これまでの科学者と地域の連携の検証と今後の連携の展望</li> <li>• 地域での発展的な研究活動、領域横断的研究</li> </ul>
<b>情報発信分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若手アカデミーのホームページ</li> <li>• 若手アカデミーの情報発信</li> </ul>

第26期若手アカデミー ビジョン・ミッション



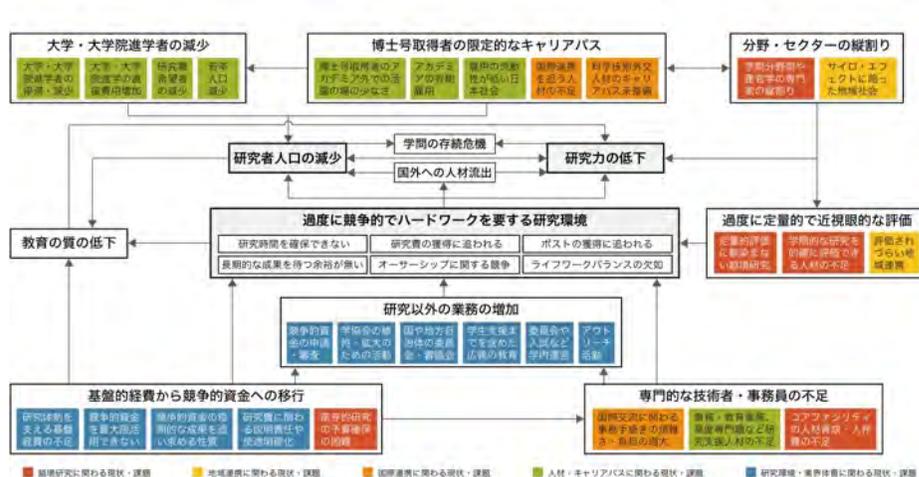
# 20年後の科学・学術と社会を見据えた リモデリング戦略の実行

未来の科学・学術を担う若手研究者の立場から、行政・産業界・市民社会、そして国内外の研究者コミュニティとのさらなる対話・連携を進め、世界や日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に関する解決策を提示し、実行していく。

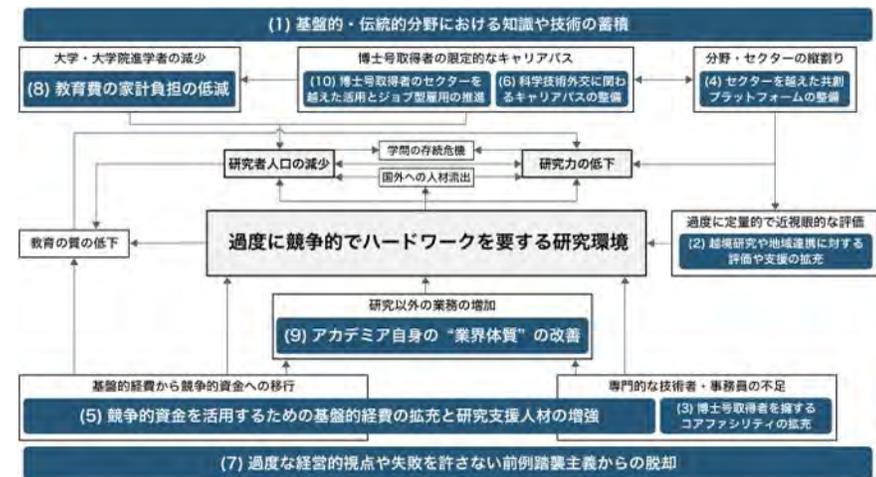
# 26期若手アカデミー 活動方針

## 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」に基づき、

- ① 実現に向けた各種ステークホルダーとの具体的な議論の推進
- ② 多様なコミュニケーション手段を活用した社会への発信



イノベーション創出を阻む構造的課題



-46- イノベーション創出のためにいま取り組むべき10の課題 6

# 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024 「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～ 2040年の科学・学術と社会を見据えて～」の開催

- ・主催：日本学術会議講堂
- ・開催日：2025年2月3日（月）13:00-17:30
- ・会場：日本学術会議講堂及びZOOMウェビナー
- ・参加者：会場参加者97名（子ども2名）

オンライン視聴者数476名

※日本、オーストラリア、カナダ、中国、インド、  
韓国、シンガポール他、25カ国・地域から参加

見解「10の課題」を出発点にイノベーション創出を  
阻害する様々な課題や解決策の方向性について討議

プログラム	
13:00-13:05	開会挨拶 光石 衛（日本学術会議会長）
13:05-13:10	来賓挨拶 今井 絵理子（内閣府大臣政務官）(調整中)
13:10-13:15	趣旨説明 加納 圭（滋賀大学教育学系教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」委員長）
13:15-13:40	基調講演 標葉 隆馬（大阪大学・社会技術共創研究センター准教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」副委員長、日本学術会議若手アカデミー副代表）
13:40-14:05	オドレ・モアズ（マギル大学化学部教授）
14:05-14:30	フェビアン・メドヴェツキー（オーストラリア国立大学科学院科学意向上センター准教授）
14:30-14:55	唐昆（清華大学万科公共衛生健康学院准教授）
15:15-17:25	パネルディスカッション モレシイ 標葉 隆馬（大阪大学・社会技術共創研究センター准教授、日本学術会議「国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024分科会」副委員長、日本学術会議若手アカデミー副代表）
	ソヨン・イム（東亜大学インターディシプリナリー・スターティース・カレッジ助教授）
	チャンドラ・シエカル・シャルマ（インド工科大学ハイデラバード校化学工学部教授）
	杉浦 愛（UNESCO科学プログラム専門員）
	スルフィカール・アミール（南洋理科大学社会科学部准教授）
	吉川 真由（ARCH Venture Partnersシニアアドバイザー）
17:25-17:30	閉会挨拶 井上 眞梨（株式会社メルカリ R4D マネージャー）
17:25-17:30	閉会挨拶 日比谷 潤子（日本学術会議副会長(国際活動担当)）

# 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024



子ども同伴の参加者の様子



今井内閣府大臣政務官来賓挨拶



パネルディスカッション



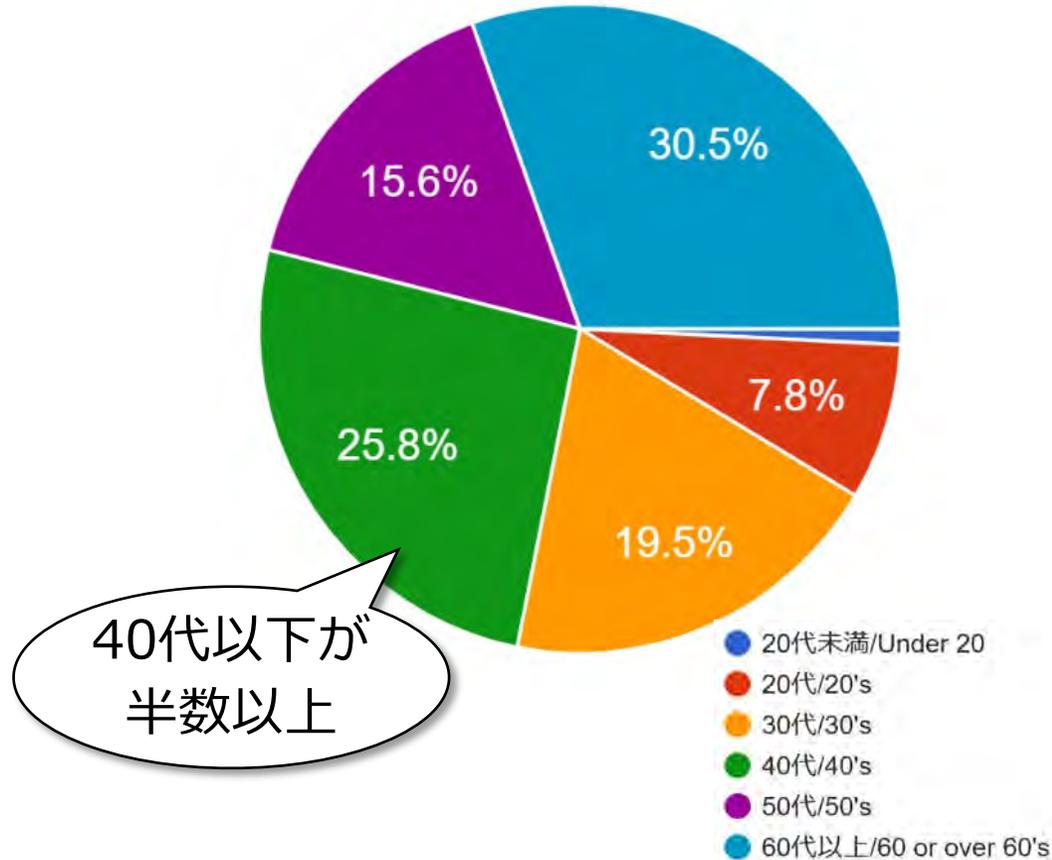
光石会長挨拶



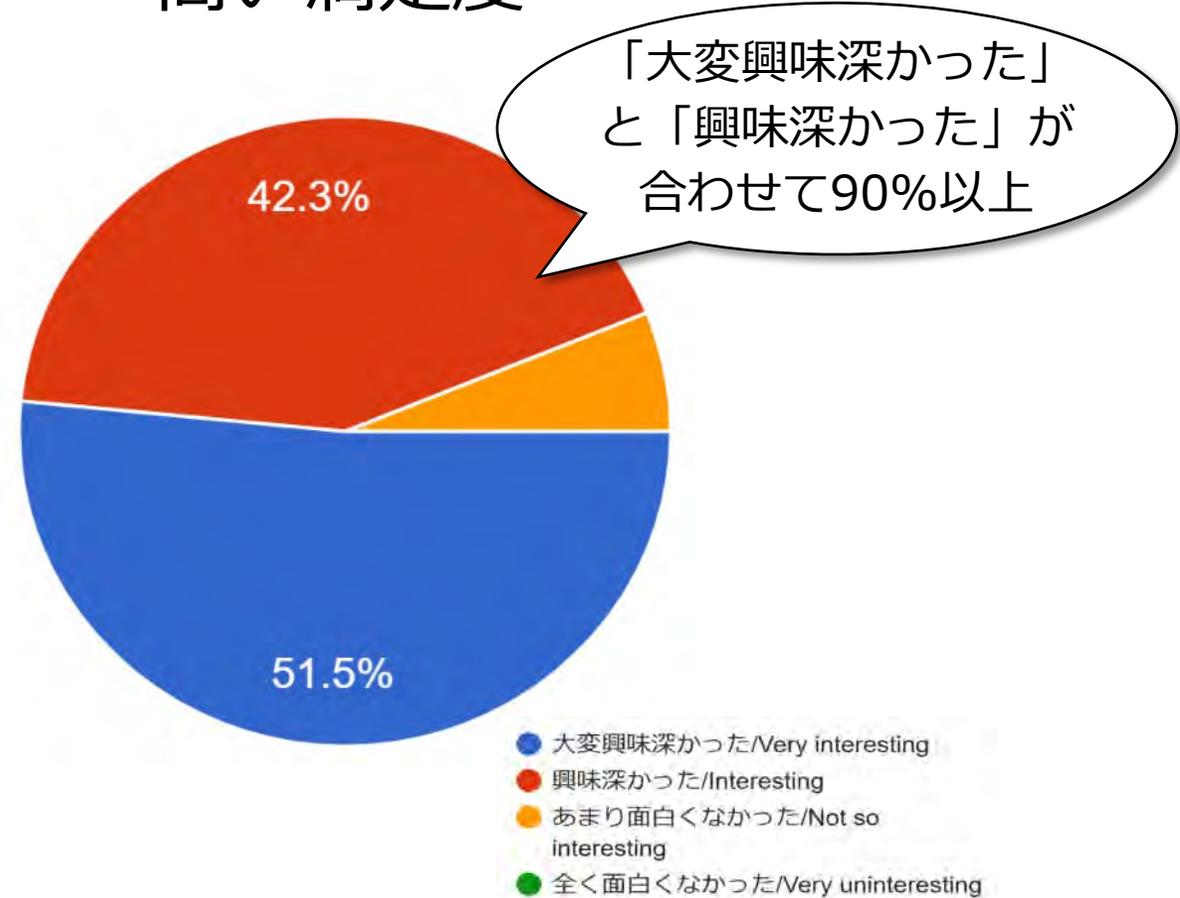
登壇者集合写真

# 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024

## 多くの若手の参加



## 高い満足度



# 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024 子連れ・託児可のインクルーシブデザイン



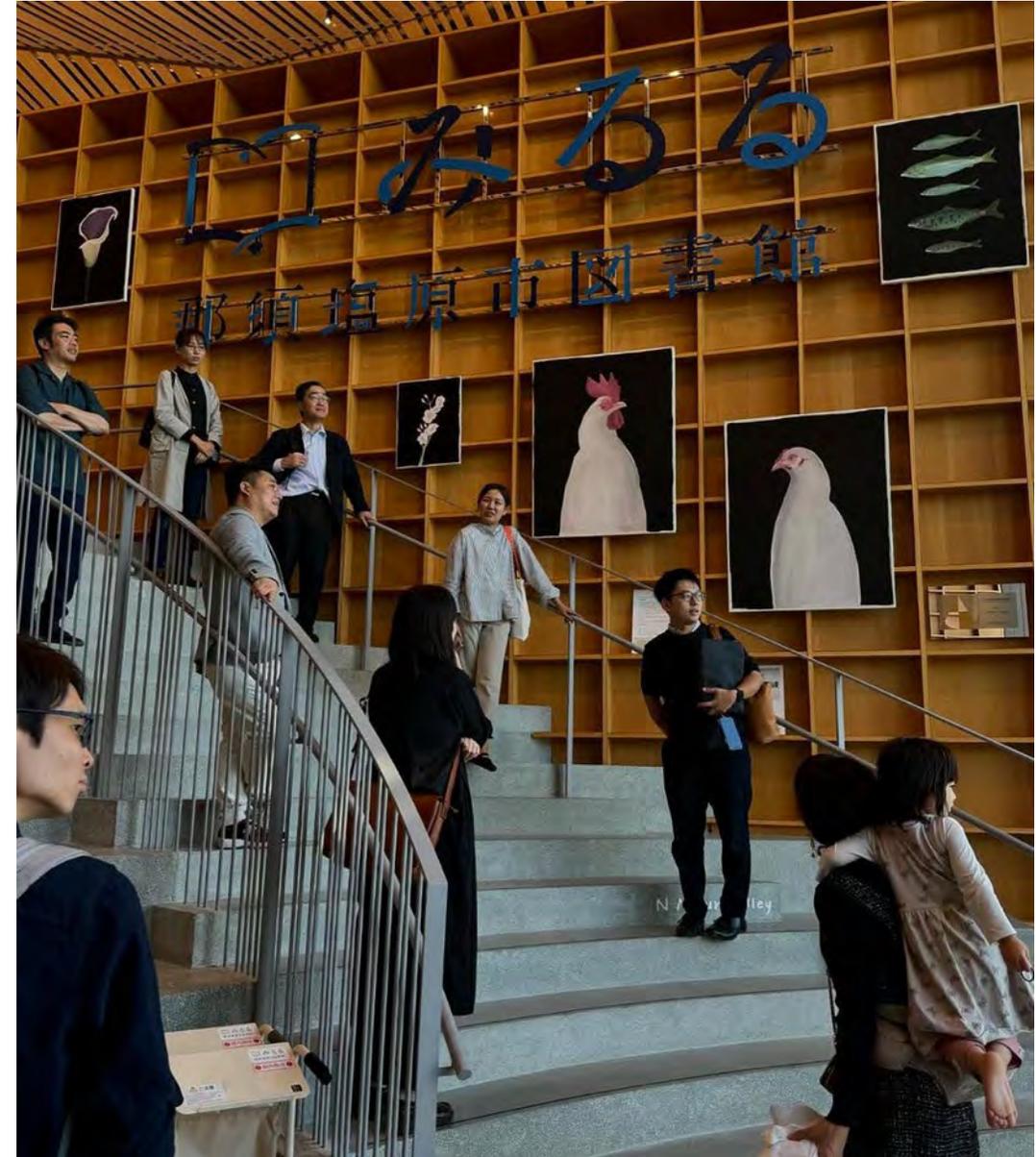
- 子ども同伴で会議に参加
- 会議室を託児所に
- 海外ゲストとともに子連れでも参加できる懇親会

## 公開シンポジウム

### 「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けて – 那須地域から始まる未来実装学アカデミー」 ならびに第2回那須会議の開催

- ・開催日：2024年10月25日（金）～27日（日）
- ・場所：栃木県那須郡那須町
- ・主催：若手アカデミー、那須会議実行委員会

見解「10の課題」のひとつ「セクターを越えた共創プラットフォームの整備」の実装に向けて、未来実装人材の育成とコミュニティづくりを実践する「未来実装学」と、その確立を目指す「未来実装学アカデミー」の創設に向けた議論を行った。



## 那須塩原市との連携による未来実装学による セクターを超えた共創プラットフォームの実証モデル

那須地域における課題解決・地方人材と企業の活性化等を「セクターを超えた共創プラットフォームの整備（10の課題）」の実モデルとして実証的に実施するリビング・ラボとして那須塩原市と若手アカデミーで連携した取り組みを推進。

那須塩原市長・副市長訪問

- ・開催日：2024年12月16日（月）
- 市役所職員とのキックオフミーティング
- ・開催日：2025年3月4日（火）



# Industry-Up Day Spring 2025 で企画セッション「学術×共創： 若手科学者と考える、未来社会を 創る新たなアプローチ」 を開催

- ・開催日：2025年3月12日（水）
- ・場所：TOKYO INNOVATION BASE & オンライン開催
- ・主催：SUNDRED株式会社

見解「10の課題」のひとつ「セクターを越えた共創プラットフォームの整備」の有効性や実現のための課題、科学・学術の多様な役割について議論。



# 多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム

## 研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割

主催：  
若手アカデミー  
研究基盤協議会

現地参加：70名  
オンライン参加：288名

多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム  
研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割

主催 日本学術会議若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会  
一般社団法人研究基盤協議会

場所 岡山大学創立五十周年記念館(現地定員 400名・先着)/Zoom

日時 令和7年(2025年)1月24日(金)14:00~17:00

◆加担者・審事前申込(締切/20)

◆社会 後援 (一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアムコーディネーター  
大阪大学複合科学研究所 技術事務専門員)

開会挨拶

14:00 小野 悠 (日本学術会議連合会長/若手アカデミー代表/京都府立総合科学技術センター)  
活動紹介

14:10 小野 悠 (日本学術会議連合連合会長/若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員長/  
京都大学大学院理学研究科助教)  
江端 新吾 (一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長/  
東京科学大学総合科学センター 理事特別教授(総合情報学))  
平塚 謙 (文部科学省次官の一言)



開催日：2025年1月24日(金)  
会場：岡山大学/Zoom

近年、研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人財を取り巻く環境は大きく変化している。そのような中で、研究開発活動全体をマネジメントするプロデューサー的人財やコアファシリティマネジャーの存在が求められているが、このような人財の不足が大きな課題として注目されている。本シンポジウムでは、若手アカデミー、研究基盤協議会、文部科学省の各立場から、課題と解決策について意見交換と議論を行った。



## 文科省職員との継続的な対話

### 個別テーマの意見交換

- ・開催日：2024年10月4日（金）、10月18日（金）、11月15日（金）、12月23日（月）
- ・会場：オンライン

### 科学技術政策ワークショップ

- ・開催日：2025年3月14日（金）16:00-18:00
- ・会場：日本学術会議

科学技術政策現場と研究現場の相互理解を深めることを目的に実施。短期的には政策への具体的なインプットを、中長期的には政策担当者と研究者の連携強化を目指す。



## STSフォーラムへの参加

- ・開催日：2024年10月6日（日）～8日（火）
- ・開催地：京都
- ・参加：門田 有希（岡山大学）
- ・内容：ノーベル賞受賞者とのディスカッション



## 第23回アジア学術会議（SCA）バン グラデシュ会合への参加

- ・開催日：2024年11月30日（土）～12月2日（月）
- ・開催地：バングラデシュ・ダッカ
- ・参加：門田 有希（岡山大学）
- ・内容：Young Researcher's Sessionで講演



## 地域連携の実践と課題について意見交換

- 多様な分野における地域連携の実践を共有し、地域連携の課題と解決策を議論
  - 地域研究は普遍性・汎用性に欠けると評価 → 適切な評価基準の構築
  - 教員の個人的なつながりに依存 → 持続可能な組織的連携の確立

## 異分野融合研究推進のための意見交換

- グループごとに異分野融合研究を提案・実践し、障壁除去や推進のためのポイントを議論
- 25期からの継続プロジェクト「越境する都市と水辺コミュニティ」の公開研究会を2025年3月27日（木）に開催



## NHKとの「日本の科学・研究」に関するアンケート調査

本調査では、研究現場の現状と課題を分析し、社会に広く発信することで、研究環境の改善や日本の科学・研究の発展に貢献することを目的とする。NHKと連携した社会への発信、見解への反映などを検討。

調査期間	2025年2月5日～2月28日
調査対象	研究者（学部生・大学院生、ポスドク等を含む）
調査方法	Webアンケート
言語	日本語、英語（途中から）
周知方法	日本学術会議からの協力学術研究団体へのメール依頼や、会員・連携会員向けのニュースレター送信を通じて、URLを配布
有効回答数	5,908名（日本語：5,898、英語：10）
共同実施	NHK（日本放送協会）

## 見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて（仮）」



- ・若手アカデミーとして発出
- ・2025年12月末を目途に発出
- ・進捗：  
2025年2月に科学的助言等  
対応委員会より申出書に  
対する助言を受領済。  
分科会3回、ヒアリング1回。

大学発スタートアップには、イノベーションのエコシステムを形成し、学術成果を社会課題の解決に繋げ、社会に還元するとともに、学術のさらなる発展に貢献する役割が期待されている。

**一方、これまで、スタートアップ起業による研究キャリアの中断や、携わる研究者の環境の変化による学術成果の生産性低下など、実際に起業を選択した科学者への影響については十分な注目が為されてこなかった。**

よって、若手アカデミーとして、大学発スタートアップに携わる科学者の現状の分析と、関連諸団体に対するヒアリングに基づき、学術とスタートアップを両輪として推進するあり方に関する意思を表出する。

# 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき課題－フォローアップ（仮）」

見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」で取り上げたテーマ群をフォローアップし、その後の議論の蓄積と新たな課題についての見解を提言する。「10の課題」は、発出後多くの話題と議論を喚起し、国民、メディア、政策関係者、学術関係者らと課題解決に向けた具体的な議論を進めてきた。

- 科学・学術を担う多様な研究人材の処遇やキャリアパス、連携のあり方について、技術職員、URA、事務職員、政策担当者らと具体的な解決に向けた議論が進展。
- セクターを超えた共創プラットフォームの整備について実証モデルの取り組みを展開。
- 国際会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024」において、主題として取り上げ、国際的な見地から議論。



## 国際代表派遣

### Global Young Academy総会

- ・開催日：2025年6月8日（日）～ 6月13日（金）
- ・開催国：インド共和国ハイデラバード市
- ・参加（予定）：
  - 安田 仁奈（東京大学）
  - 松山 亮太（酪農学園大学）



**“Confluence of Visionaries: Empowering Science for Global Change”**

# どうぞ、よろしくお願いいたします。

